

歴史と自然のストック、京都御苑の魅力を発信

京都御苑



NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News

autumn

秋

第131号

2016.9.1

京都御苑ニュース

CONTENTS

- ▶ 閑院宮邸跡の公家邸宅ゆかりの建築を見る
- ▶ 秋の鳴く虫
- ▶ 秋の御苑の森、自然観察会
- ▶ 学生コラムー平安女学院大学国際観光学部ー
- ▶ Information



閑院宮邸跡収納展示館 ケヤキの床に映える紅葉

京都御苑閑院宮邸跡は平成十八年全面的な再整備を終え、収納展示館となっている建物も修復・保存のため大改修が行われた。京都伝統建築技術協会理事長を務める中村昌生氏にその見どころを伺う。

閑院宮邸跡の公家邸宅 ゆかりの建築を見る

中村昌生

旧閑院宮邸は、九條家の拾翠亭と共に以前から調査させて頂いており、北棟の鬼瓦に寛政三年、南棟の獅子口に安政の年号を見付けるなど、建物の風格から江戸時代の閑院宮邸の遺構に違いなからうと、考えていました。京都迎賓館の建設に伴い、この遺構の存続が危ぶまれたこともありました。保存活用が決定されたことは何よりでした。

そのことを議する委員会、明治十六年宮内省の支庁が設けられた記録があり、むしろ官庁建築の遺構とみるべきではないか、という意見が出されました。当初は桂宮家かつのみやに設置され、間もなくここに移ったことは事実です。しかし新しく庁舎が建設されたのではなく、閑院宮邸の建物が活用されたことは否みがたく、保存活用が決定されたのでした。

宮内省の支庁になって、敷地の境界が変り、北側道路に長屋門が出来、東側に面して表門が開かれ、主

屋にも東向きに入母屋造の車寄、玄関が設けられましたが、東西南北に配置された建物の外観には、それぞれ殿堂の風格がそなわっています。特に玄関棟から連なる南棟は、一段と高く聳える入母屋造の外観が気品を放ち、南側へ回ると寄棟造の屋根

が一段低く、軒を一線に揃えて連なり、珍しい外観を見せています。平成の改修時にも、使用できる古い瓦はなるべく再利用されました。清楚な中庭を囲んで四方に建物が配置されていますが、西棟だけは新しく、前面に広縁を設け、前庭に高



閑院宮邸跡収納展示館東南外観



現在の獅子口

欄を付し、中央に階段を設けています。化粧屋根裏で虹梁上の板幕股から、大正から昭和初年の建物と考えられています。即位式に際して建てられたのかも知れません。他の三方は、改造増築は加えられていますが、閑院宮邸の建物であると考えられています。

特に南棟は、資料館として展示・収納のための改修もおこなわれましたが、柱をはじめ部材に痕跡や埋木、大工の記した番付などが見られ、建物の古さを感じさせました。

諸室は角柱に長押をめぐらし、漆喰壁、竿縁天井という簡潔な書院造の構成です。それら部材の寸法のバランスが程よく、品位を感じさせます。

そして特に注目されるのは、長押と天井との間の小壁が、ほとんど白壁になっていることです。一般の書院造では、小壁を吹抜いて欄間を設けたりします。公家邸宅では小壁も壁であることが多いのです。冷泉家（重文）でもそうです。南棟南側の高い所にあけられている格子窓も、もと壁であった痕跡がありました。展示と共に公家屋敷の雰囲気も味わうことが出来ます。

南棟西端の、縁をめぐらした一室だけが構成意匠を異にしており、目を眩します。床は一面に樺の板敷、天井は角柱の化粧屋根裏、角柱、長押付で小壁は壁ですが、柱上に舟肘木をおき、梁の上に大きい幕股をおいています。この室は京都御所の賢所に使われた春興殿の一部を移築し

京都御苑の
自然教室でおなじみの
谷幸樹さんに伺う
秋の虫の鳴き声
いろいろ

御苑・いのちの風景 秋の鳴く虫

谷 幸樹



芝生の色に同化しているショウリョウバッタの幼虫

夏の御苑をにぎわしていたセミの鳴き声が聞こえなくなると、草原で秋の鳴く虫の声が聞こえてきます。

昼間の草原では「キチキチキチ」と肢と翅を擦り合わせて飛ぶショウリョウバッタが見られます。幼虫は芝生の色に同化して、体を保護しています。成虫の顔は愛嬌があります。雄は雌の背中に乗り交尾をします。イネ科の植物を食べて成長します。バッタは後肢の付け根（腹部第一節）に薄い膜をした耳があるの観察してみましよう。一方、草むらの下では夜に鳴

くコオロギの仲間が生息しています。コオロギは、羽化したばかりの時は、長い後翅をもっていて、それを使って盛んに飛んで移動します。一週間ほどすると自分で後翅を抜き取り、前翅だけのになります。その頃から本格的に鳴き始めます。よく見かける種は、エンマコオロギ・ツヅレサセコオロギ・ミツカドコオロギ・ハラオカメコオロギです。これらの種を判別するには、特徴のある顔面を見ただけで、種名が分かります。コオロギの可愛い顔を観察してみましよう。種によって雄の鳴き声が異なる

学生コラム

「拾翠亭」でくつろぎのひとときを

平安女学院大学国際観光学部4回生
team 松 天満屋 奈央

京都御苑の南に「拾翠亭」があります。ここは五摂家のひとつ九條家の別邸だったところで、お茶会や歌会などに使われていたようです。江戸時代後期に建てられた書院造の二層の建物が残っています。靴を脱いで上がると、目の前に木々に囲まれた九條池が広がります。池を眺めながらくつろいでいましたが、風通しもよく静かで、とても落ち着く時間でした。昔は東山を望むことができたようですが、いまは樹木が大きくなって見えなくなってしまったそうです。しかし、町に立ち並ぶマンションなども木々が隠しているようで、かえって雰囲気が良かったです。一階には、三人ほどしか入れないような小さなお茶室もあり、小窓から見る景色も美しかったです。この場所で抹茶と和菓子をいただくことが出来るようになるといいなと思いました。



こどもみらい館は、京都御苑の南側に位置する、京都市の子育て支援の中核施設です。親子に寄り添う子育て支援を目指し、相談事業の他、子育て講座・イベント等を開催しています。また、大型遊具を備えた遊びの場「こども元気ランド」や「子育て図書館」を開設しています。

中でも、親子で京都御苑の自然に触れ合っていたとき、その素晴らしさを知っていただくために、年三回程度、京都御苑で子育てパワーアップ講座を開催しています。

そのうち一回は、京都精華大学人



参加者に解説をする京都精華大学人文学部板倉豊教授

文学部の板倉豊教授から、御苑の生き物について解説していただいています。子ども達だけでなく、保護者



芝生下のミクロの世界を探検しよう！

（京都市子育て支援総合センター こどもみらい館）

の方々も、目をキラキラと輝かせて、植物・昆虫等を直接手に触れたり、観察し、自然を体験しておられます。京都御苑の魅力を知っていたとき、親子で京都御苑の四季折々の自然を満喫していただきたいと考えております。

たものであろうという説のあることも紹介しておきます。
（一財）京都伝統建築技術協会理事長



虹梁上の板墓股



菊の意匠を凝らし



エンマコオロギの雌

るのは雌を誘うためです。
エンマコオロギは、閻魔大王の顔に似ていると言われ名前が付けられました。コオロギの仲間では一番イケメンです。「コロコロリ」とさわやかに鳴きます。雌には長い産卵管があります。

雄は左右の前翅を擦り合わせて音を出しますが、行動に応じて鳴き声を変えます。縄張りを主張する時は「コロコロコロリ」と鳴きます。雄同士が喧嘩する時は「ギリギリギリ」と鳴き、雌を誘う時は「コロコロコロリ」と良い声で鳴きます。

これらの音を聞くために耳が発達しています。前肢の脛節に細い穴があり白い鼓膜が発達しています。コオロギの耳を観察してみましょう。

ミツカドコオロギの雄の顔は

ハラオカメコオロギは触角の第一節の外側に突起があります。「リリリリ・リリリリ」と短く切って鳴きます。

いろいろなコオロギの鳴き声を観察するのも楽しいものです。御苑には、多くの雑草があることからバッタやコオロギ等の多種多様な昆虫が生活しています。これらの昆虫を食べる多くの野鳥も生息しています。多様性にとんだ自然環境があるので多くの生き物が生息しています。このような素晴らしい自然をいつまでも保全していきたいと願っています。

（京都自然観察学習会）



ショウリョウバッタの愛嬌のある顔

■イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

京都御所は従来より春と秋に一般公開を行っていましたが、7月26日から土日・祝日も含め一年を通して一般公開を開始しています。

公開日：通年。ただし、月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）、行事等の実施のため支障のある日は休み

公開時間：9:00～17:00（入場は16:20まで）ただし、秋冬期間は日没時間を考慮して閉門時間を繰上げ。

入場門：清所門

入場方法：申込み手続きは不要。入場時に手荷物検査あり。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

仙洞御所の参観拡充

仙洞御所は従来より事前申請による参観を行っていましたが、8月10日から土日・祝日も含め事前申請に加えて当日受付も行う参観を開始。

参観日：京都御所公開日に同じ

当日受付場所：仙洞御所

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開



京都迎賓館は、日本の歴史、文化を象徴する都市・京都で、海外からの賓客を心こめてお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくことを目的に建設された国の迎賓施設です。接遇等に支障のない範囲で、一年を通して一般公開を実施しています。

公開期間：詳細は下記のお問合せまたは迎賓館のホームページでご確認ください。

参観料金：大人1,000～1,500円、中高生500～700円

お問合せ：☎075-223-2302（自動音声案内）

京都モビリティウィーク&カーフリーデー2016

—京都御苑会場—

過度にクルマに依存しないライフスタイルの創出を目指す世界的な取組みのイベントを、二条駅前会場とともに京都御苑でも開催します。

主催：京都カーフリーデー実行委員会

開催日：平成28年9月22日（木・祝）

内容：○京都御苑内レンタサイクル 中立売

休憩所で御苑内利用限定のレンタサイクルを無料で貸し出します。○モビリティウィークギャラリー（写真展） 中立売北休憩所（9/16～9/22）

京都御苑秋の自然教室

初めての方大歓迎！京都の街中にある豊かな緑の御苑で、秋の自然を見つけに来ませんか。



日時：平成28年11月20日（日）9:30～12:00

集合：堺町御門（京都御苑南側 地下鉄烏丸丸太町 徒歩5分）受付9:00～9:20

講師：京都自然観察学習会の先生方

内容：秋の御苑内の植物、キノコ、虫や鳥の生態を観察します。

参加費：100円（保険代）

主催：環境省京都御苑管理事務所

その他：筆記用具を持参、ルーペ・双眼鏡など観察用具があると便利。雨天時の準備、野外活動に適した服装でご参加ください。

■苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。収納展示室では京都御苑の歴史や自然が学べます。

●写真展～京都御苑の生きものたち～開催中

開館時間：9:00～16:30（入場は16:00まで）

休館日：月曜日（祝日は開館）、年末年始

アクセス：問ノ町口（御苑南西角 地下鉄丸太町駅 市バス烏丸丸太町 徒歩5分）

拾翠亭（茶室）

五摂家の一つであった九條家の遺構で江戸時代後期に建てられた九條家別邸。参観や茶会などにご利用ください。

参観：毎週金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 参観料 100円（高校生以上）

利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます。上記参観日、年末年始を除く 毎日9:00～16:00 利用料 12,000円～

申し込み：国民公園協会京都御苑

休憩所（レストハウス・売店）

営業時間：9:00～16:30

中立売北休憩所（御苑西側中立売御門北すぐ）

食堂、売店（京みやげ）、ギャラリー。

中立売南休憩所（御苑西側中立売御門南すぐ）
軽食・喫茶 国産牛使用の手づくりハンバーガーなど豊富なメニュー、ドリンクバーは飲み物おかわり自由です。



チーズバーガー

だし玉子オム

ホットドッグ

ハヤシライス

富小路休憩所（御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接）軽食・喫茶、菓子等の販売

駐車場

料金：乗用車500円 バス1,300円（最初の3時間）

中立売御門西駐車場（乗用車、バス）

入場 7:40～19:30 出場 24時間

清和院御門東駐車場（乗用車専用）

入・出場 8:40～20:00（20:00以降閉鎖）

運動施設

富小路テニスコート（5面）有料

富小路／今出川広場（軟式野球・ソフトボールなど）有料

申し込み：国民公園協会京都御苑

秋の京都御苑マップ



御苑の花暦	9月	10月	11月	12月
	ハギ（児童公園、凝華洞跡東側付近） 7月～9月	ヒガンバナ（御苑内の各草地） 9月中旬	サザンカ（児童公園付近） 11月～2月	ジュウガツザクラ（出水付近） 10月～4月

会員募集（平成28年度）のお知らせ

平成28年度（平成28年1月～12月）の国民公園協会京都御苑会員を募集します。

■年会費

●普通会員……………1,000円以上

●賛助会員（会社・団体）……………10,000円以上

■会員特典

1 京都御苑ニュースの送付

2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈（ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）

■申し込み・お問合せ先

（一財）国民公園協会京都御苑



編集後記

申年とともに誌面一新も『秋号』にて早くも第3号。御所の鬼門である北東角には狼が祀られ、「狼ヶ辻」と称されています。御所、迎賓館を巡る際に申年の内に是非訪れてみては。（発行人 池田善一）

発行・お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3
TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



当誌は全ページ再生紙を使用しています